

共翔

第16号



目次

- | | |
|---------------|------------------|
| 01. 館想館語 | 08. 図書館インタビュー |
| 02. 巻頭エッセイ | 09. アルバイト通信 |
| 04. 在学生のみなさんへ | 10. エッセイコーナー |
| 06. 学生の声 | 12. OPEN LIBRARY |

館想館語

最も駅に近い大学図書館になりました

図書館の閲覧室から見ると、すぐそこに、手を伸ばせば届きそうな、そんな場所に「西川原・就実」駅が完成。平成20年3月15日、岡山県内では123番目となる駅として開業しました。

長い間の念願が叶い嬉しい限りです。

It has been my heart's desire for twenty years.

眺めていると、就実大学の学生だけでなく、たくさんの方々が利用してくださっており、ありがとうございます。すぐそばのわが図書館もご利用くださればもっと嬉しく思います。

「みなさーん、電車の時間待ちとして、ぶらり寄って頂戴な!!」





「売れない」本の山

人文科学部総合歴史学科准教授 苅米 一志

突然だが、本にまつわるお金の話をしてみたい。別段、本が何十万部と売れ、作者が印税でウハウハという話ではない。書物が本当に一回こっきり、数百部しか出版されず、作者には「印税が絶対に渡らない」という世界のお話である。

20年ほど前のこと。東京周辺の大学院生たちがつどって、ある史料集の刊行をもくろんだことがある。私はまだ学部生であったが、幸いに先輩が誘ってくれたため、その作業に加わることができた。この時点で、まだ出版社のめどは立っていない。

予定されたタイトルは、『中世海事史料集成』。日本中世の古文書・古記録から、海にかかわる史料をすべて拾い出し、編年でならべるという体裁である。いまだ農村史がメジャーであった当時、それは画期的な書物になるはずだった。

作業はいたって地味なものである。まず手はじめに、『鎌倉遺文』という鎌倉時代の古文書を網羅した本（全46巻。収録数約3万5千点）に目を通し、海にかかわる史料を拾いあげる。それが終わったら、他の史料集についても同様の作業を行なう...はずだった。だが、作業をはじめてすぐ、巨大な壁にぶちあたった。要するに、『鎌倉遺文』の関係史料だけでも膨大な数にのぼることがわかったのである。私たちは方針を変更した。タイトルは『中世海事史料目録』。史料一点一点を載せるのではなく、「この史料には、こういう語が出てきますよ」という一覧だけを示すことにしたのである。これによって、

分量は何十分の一に圧縮された。私たちは、一人が1ヶ月あたり『鎌倉遺文』一巻ずつを担当することにして、毎月その成果をカードのかたちで持ちよった。構成員はおよそ5名、目を通す史料は全46巻であるから、およそ10ヶ月もあれば終了するはずであった。

だが、いくつかの問題があった。まず『鎌倉遺文』は、当時まだ刊行の最中であったという点である。全46巻がそろったのは1997年のことで、私たちは当然それを待たなければならなかった。無論、そのあいだ何もせずにはいたのではなく、一点一点の史料につき、他のどの刊本に掲載されているかを洗い出し、カードにとる作業をすすめた。もう一つの問題は、目録をどのように活字化するかという点である。恐ろしい話だが、作業をはじめた当初、ワープロはまだ普及していなかった。データはすべて手書き、仮にワープロを使うにしても、それを手で入力するという、気の遠くなるような作業が待ち受けていた。

こうして『鎌倉遺文』の刊行が終了したとき、すでに作業をはじめてから10年の歳月が流れていた。時はうつり、メンバーは全員がパソコンを使いこなせるようになっていた。この分野の急先鋒であったメンバーの一人は、最新版の「桐」というソフトですべての史料を入力し終えている。しかし、最終的なタイトルは、『鎌倉時代水界史料目録』。もはや、中世という時代すべてを扱う気力も体力も残っていなかった。

だが、その頃、不穏な噂が流れはじめていた。『鎌倉遺文』がすべてデータ化され、CD-ROM版で販売されるのではないかというのである（これは今年、現実のものとなった！）。もしそうなら、私たちが苦労して活字から語彙を拾いあげた作業は、ほとんど意味のないものとなる。では、どこで独自性を打ち出すか…。ここで、作業カードに「網文」という項目があったことが幸いした。これは、史料の全体または部分を要約した文章であり、長文の史料の場合、読者にとってはまたとない手引きとなる。すでに出版社（『鎌倉遺文』の販売元である東京堂出版）とも刊行の契約をかわしていたが、私たちはふたたび、この「網文」を練りなおすこととした。

ここからさらに4年がたち、2001年。監修者に網野善彦氏をむかえ、原稿をお渡ししたところ、烈火のような叱責を受けた。史料に対する検討が不十分だというのである。私たちは泡を食って、ふたたび史料一点一点を検討することとなった。それから2年がたった2003年。いく度かの校正をへて、ようやく書物は出版された。1987年から作業をはじめたわけだから、足かけ16年。気が遠くなるとは、こういうことを言うのである。

『鎌倉時代水界史料目録』の厚さは6センチ、価格はほぼ1万円。ずしりと重い書物を手渡されたとき、私はひそかに思った。「こんな本、売れるのだろうか？」。そしてすぐに己の愚問に気づき、こう言いなおす。…売れないのだ。そういう宿命なのだ、と。

ここで、作業をふりかえってみよう。私は毎月一度、茨城県と東京を往復した。また、月に10数時間は史料を読む作業にあてていた。私一人の話ではない。5人のメンバーが16年間、である。もしアルバイトを雇い、作業費と交通費を払ったとすれば、一体どれほどの金額になるのか。よもや数十万円の単位ではないだろう。

では、私たちはそれを印税で穴埋めできたのか。…胸を張って言うが、印税は一銭も受け取っていない。これは冗談ではない。他のメンバーも同様である。第2刷が出たら印税を出すとの約束だが、そんなものは出るわけがない。そもそも数百部程度の刊行だが、まだ在庫があるのだ。

実は、まだ続きがある。出版社は私たちに、2冊ずつ現物をくれた（報酬はこれだけ）。本が複数あれば、他人に渡したくなるのが人情である。しかし、それ以上は自腹で購入しなければならない。10冊も買えば、10万円になる勘定である。16年間の心血を注いで、著者の側が赤字！ 覚悟はしていたが、私はほとんど笑い出したくなった。

一体、誰が得をしたのであろうか。実のところ、誰も得をしていない。では、なぜ出版社はそのような書物を刊行するのか。これには難しい問題がある。次々に企画を出していかないと、専門書の出版社としては経営が苦しい。しかし逆に専門書の場合、固定した購買層を予測しやすい。たとえば先の目録が辞書として扱われるとすれば、全国の図書館には買ってもらえるだろう。だから、その数を見こんで採算ぎりぎりの部数を印刷する。これでは印税など出せるわけがないのである。ほぼすべての専門書の出版は、こうした金銭事情のもとに成り立っている。この分野で「儲ける」ことは不可能である。

恐るべき話だが、およそ図書館というものは、こうした「売れない本（専門書）の山」である。しかし、一冊の本が世に出るまでには、上述したような「心血の注入」がある。これを「尊い」と考えるか、「時間と労力の無駄」と考えるか。…図書館の書棚の前に立って、寂しくそのことを思う。…本の背表紙に、著者たちの怨念を感じながら。

在学生のみなさんへ

絵本を翼に、海を越えて 洋書“おとりよせ”に挑戦！

大学院文学研究科史学専攻2年 土松雅美

私は、就実では数少ない社会人学生です。就実に入学して6年目ですが、それはもう言葉では言い尽くせない苦難がありました。そのひとつが語学でした。

高校で英語を学んだのは遠い昔。念願の大学生になったのはいいけれど、学習のベースを失った私は途方にくれました。「どうしよう、英語がわからない！」



そんな私に手を差し伸べてくれたのが図書館でした。しょんぼりしながら参考書を探していた時、発見したのが洋書の絵本。洋書ならではの洗練された美しいイラストが目飛び込んできたのです。ページをめくると、絵本とはいえ洋書は洋書、文章は、やはり、わかりませんでした。しかし、イラストが文章を補い、なんとなくではあるけれど、意味が判断

できました。書架の前で辞書を引っ張り出し、一言一言、意味調べをしながら読み終えたときは、なんともいえない充実感がありました。意味は間違っていたかもしれないのに、「努力すれば、できるかもしれない」と思えました。

歳月は流れ、そんな私も、なんと大学院まで進んでしまいました。しかも専攻は西洋史！英語はもちろん、第二外国語まで手がける日々となりました。相変わらず語学は苦手です、途方にくれることも度々ですが、そんなときは英語の絵本を毎日読み続けたあのころを思い返してみるの



です。優しいイラストたちが、「大丈夫だよ、今度も、きっと読めるよ」と語りかけてくれるような気がします。

ところで、みなさんは、就実の図書館から外国の文献をとりよせることができるって、ご存知でしたか？卒業論文で国内の文献を他大学や図書館からとりよせる方は多いと思いますが、外国の文献も大差ありません。

海を渡って来てくれるのだから、少々費用はかかりますが、届いたときの喜びも大きいです！「外国語の文献をとりよせたって読めっこないし...」「とりよせ方法が難しそう！英作文は苦手！」なんて心配は

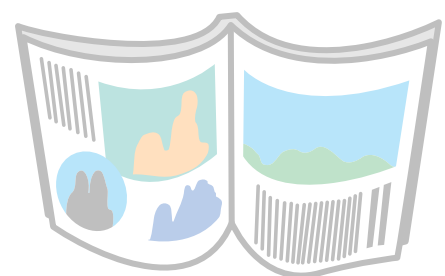
いりません。図書館で書類はもらえますし、相談にもものってくださいますから、問い合わせだけでもしてみる価値アリです。

そして、読めるかどうかは...正直、読んでみないとわかりませんが、読めなくてくじけたときは洋書絵本を眺めてみてください。素敵なイラストが励ましてくれるはず。それに、絵本なら誰でも必ず読める部分があります。「読める」の快感を、「読もう」のエネルギーにして、本と図書館

の持つ可能性を海外にまで広げられたら、たかが絵本とはいえ捨てたものじゃないぞ...って思いませんか。

たった一冊の本で、時空を越えた紙上海外旅行気分を味わえるなんて、大学生ならではの。一応、社会人の私としては、ちょっとお得な気がするのです。

The image shows a detailed I.F.L.A. International Loan/Photocopy Request Form. It is a bilingual form with fields for borrowing library address, book details (author, title, volume, pages, ISBN), and request type (loan or photocopy). It also includes checkboxes for various conditions like 'Part not held', 'Title not held', and 'Not for loan'. There are sections for 'Lending library's address' and a declaration of use for research or private study. The form is titled 'I.F.L.A. INTERNATIONAL LOAN/PHOTOCOPY REQUEST FORM' and 'FORMULAIRE DE DEMANDE DE PRET/PHOTOCOPIE INTERNATIONALE'.



学生の声 ～私と図書館～

再 発 見

大学院文学研究科英語学・英米文学専攻修了生 松本加容

私は大学院に入学して以来二年間、図書館を利用する機会が多くなりました。それまで読書にほとんど興味がなかったため、大学時代の四年間は図書館を利用することも少なく、読んだ本も数えるほどしかありませんでした。しかし、大学生活を終える頃、新しい分野の研究に挑戦して、もっと教養のある人間として大きく成長したいという希望が私の中に湧いてきて、大学院進学を決意し、入学後はイギリス文学を一から学びました。そして、修士論文の研究テーマとなった『嵐が丘』という作品に出会いました。この作品は、十九世紀のイギリスの女流作家であるエミリ・ブロンテによって書かれたもので、今ではイギリス文学の最高傑作の一つと見なされています。研究を進めるにあたって『嵐が丘』とエミリ・ブロンテに関する多くの論文や雑誌を読む必要があり、手始めに図書館を訪れてみると、読みたいと思っていた書物が和書から洋書に至るまでほとんど揃っていて、就実大学の図書館の充実ぶりに驚きました。

また、就実大学の図書館にない書物でも、他の大学の図書館から取り寄せることができるという大変便利なシステムがあるということを知りました。このシステムを利用すれば、東京や大阪のような遠くの大学の図書館にしかない本でも手に入れることができます。読みたい論文や雑誌のタイトル、ページなどを申し込み用紙に記入し、職員の方にお問い合わせすると、一週間と経たないうちにその書物の必要箇所のコピーを取り寄せてもらうことができます。私は、修士論文を書き進めるにあたって、四十年以上も前に外国で発行された本と雑誌を探していたのですが、職員の方に相談したところ、他県の大学の図書館にあるということが分かり、このシステムを利用してコピーを取り寄せました。職員の方も大変親切に対応して下さいました。このような図書館同士のネットワークのおかげで、より多くの本を効率よく手に入れることができ、私の研究はより充実したものとなりました。

この春から、就実大学の目の前にJRの駅（西川原・就実駅）が新設され、ますます図書館へのアクセスが便利になりました。これを機に今後は、他の大学の学生や地域の住民の方々など、今までに増してより多くの人に就実大学の図書館の魅力を知ってもらいたいと思います。



新 発 見

人文科学部表現文化学科3年 北 恵 子

就実大学に入学して、「就実大学図書館は全国大学図書館ランキングで上位にランクインするようすばらしい図書館である」と聞いて、私は胸を躍らせて図書館へ向いました。すでに、オリエンテーションで、図書館の使用方法説明のために館内を案内されて、その建物や蔵書数のすばらしさを目の当たりにした私の期待は容易に想像できるでしょう。

何はさておき、好きな作家の名前（瀬尾まいこ）で検索してみました。しかし、検索結果は0件。愕然とした私は、知っている作家の名前を検索していきましました（佐藤多佳子 等）が、ほとんどヒットしませんでした。こんな広くて大きい図書館に、なんで無いの！？という、このときの衝撃を今でも覚えています。そのファーストインパクトのせいで、課題の調べ物で使用する以外、図書館に行くことはほとんどありませんでした。しかし、二年生の前期も終盤に差し掛かったころ、ふと、村上春樹の「世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド」を借りてみたのです。すると、高校時代は苦手だった村上春樹の小説がこんなにも面白いものなのか！と感動しました。思い返すと、課題の調べ物をたくさんこなしていくうちに、辞典や専門書に親しみを覚えていましたし、そしていつの間にか、講義を通して知った文献を愛読しており、高校時代に好きだった本では満足できなくなっていました。

高校生を脱皮して大学生になったとき、私は、大学図書館が大学生にふさわしい図書を蔵書しているということに気づいたのです。それからは、しげしげと図書館に足を運び、ジャンルを問わずさまざまな本を手に取りました。そして、同年度の後期には新たな楽しみも発見しました。その場所は図書館の書庫です。学生が許可証無しに書庫へ自由に入出入りできるというのは本当にすばらしいことだと思いますし、なかなか経験できないことだと思います。機会があれば、ぜひ一度は書庫へ一人で行ってみてください。一人きりの書庫という、静かでちょっと怖い空間で、文献をあさるといのは本当に楽しいものなのです。

研究室、ゼミの仲間、先生、教職関係の仲間、親しい友人、カフェ、部活の後輩・先輩。私の大学生活の中には、たくさんの居場所があります。以前は嫌いだと思っていたのに、自然と図書館も仲間入りしていました。この文章を読んでいるかたにも、きっと（枚挙に暇がないほど）さまざまな居場所があるでしょう。あなたの居場所の中に図書館が仲間入りすることを願っています。



まだまだあります！ みんなの図書館利用法！



自動貸出機は使ってみると、簡単、便利です。

書庫の電動書架

スイッチ1つで過去の雑誌がたくさん見られます。



1か月前の新聞も読めます。



ゲート近く

新着コーナーのチェックは欠かせません。



文庫本も子エック!!

静かに勉強できます。




アルバイト通信

図書館では夕方5時から閉館の夜8時まで、本学の学生にアルバイトをお願いしています。

頑張っている学生から、メッセージをいただきました。

人文科学部総合歴史学科4年 瀧川 雅 庸

 図書館アルバイトを私は週一回させていただいています。皆さんは図書館のアルバイトだから楽にできそう、または非常に大変だと思われるのではないかと思います、普通に忙しいですね。楽ではありませんが、特別大変でもない。椅子に座って番をしているだけではなく、本のカバーやラベルを張ったり、本の複写をしたりと、意外と忙しいんですよ（笑）。早いもので私はこのアルバイトを始めて1年になります。仕事には慣れましたが、まだまだ学ぶことが多く毎回多くのことを勉強させていただいています。



仕事内容はカウンター業務とそれ以外の作業があります。カウンターでの仕事は図書の貸し出しと返却、閲覧個室利用の受付、パソコン使用の受付、などをおこなっています。それ以外のときには、新着図書のカバー、ラベル張り、所蔵印を押す、などのことをしています。他には本の複写（ILL）という作業があります。あとは閉館時の館内の見回り、最後に1Fの自動ドアの電源を切り、新聞のコーナーの新聞を回収して仕事は終了です。意外と忙しいのですが、忙しい分だけ充実していますよ（笑）。

ちなみに私は図書館司書の資格は持っていません。仕事に差し支えはありませんでしたが、図書に関して全く素人の私は学ぶことが多く、毎週新しい発見があります。例えば、図書館の利用の仕方をよく理解できるので図書館を以前より有効に利用できるようになったこと、本の返却処理をするときに膨大な数の本に接する機会があるので新しい分野を開拓できたことなどがあります。そして、何より図書館がより身近なものになった気がしますね。みなさんも是非、大学図書館を上手に利用して本と図書館の魅力を再考していただきたいと思います。あと少し残念なことは、授業後は利用者が少なく、稀ではありますがカウンターの利用者が一人もいないことがあることです。またこれも稀ですが本を粗雑な利用をされると、とても悲しいですね。



最後になりましたが、図書館事務室のみなさんはとても優しい方ばかりで、非常に良い雰囲気です。みなさんも是非、図書館を利用してください。私自身はまだまだ、至らない点が多く、迷惑を掛けてしまうことも多いのですが、みなさんのため、自分のために図書館アルバイトを頑張っていきたいと思っています。そして、利用者みなさんが快適に図書館を利用できるよう努力していきます。



私の読書遍歴

薬学部医療薬学科長・教授 中西 徹

今回、「共翔」に文章を書くにあたってその内容についていろいろ考えたが、結局、月並に「私の読書遍歴」と称して、自分がこれまで読んだ本の中で印象に残ったものをいくつか取り上げて御紹介することとした。

小さい頃の記憶に遡ると、当時の私の読書というものの多くは「宇宙旅行の話」とか「気象天文の図鑑」といった宇宙天文物であった。その頃、名古屋市立科学館のプラネタリウムに夢になっていた私は、将来は天文を仕事にすると決めていて、それは天体望遠鏡に取り憑かれた中学時代から、天体物理学を目指した大学進学の間まで変わらなかったのである。ちなみに最近、慶応大学医学部長になられた末松誠先生も、かつては天文少年で大学で天文学を学ぼうと思っていたと書かれていたので、実は生物系にこの手の人間は多いのかも知れない。

さて高校時代、私の科学への指向あるいは研究に対する興味を決定付けた書物に、量子物理学研究における英雄の一人であるハイゼンベルクの著書「部分と全体」(der Teil und das Ganze)がある。量子力学とプラトン哲学の関係を論じた、当時の私にはおよそ難解なこの書物は、一方で未知なる科学への不思議な憧れを私に喚起したものであった。

一方で、高校時代に私が夢中になったもう一つの対象が音楽である。特に、最も創造的な作業の一つであると思われる作曲という行為は、当時から合唱やその指揮活動を行ってきた私にとっては大変魅力的なものであった。これは読書と言えるかどうかはわからないが、オペラや管弦楽のスコア(総譜)を読むという趣味はこの頃から始まったもので、今でも山歩きや旅行に行く時はその時の気分合った曲のポケットスコアを必ず1、2冊はカバンに入れていって、旅先での音楽鑑賞を楽しんでいる。

音楽の領域で私に最も影響を与えた作家は武満徹である。彼はもちろん作曲家として世界的に高名であるが、同時になかなか見事な文章の書き手としてその多才ぶりを発揮している。彼の著書は数多いが、その最後の随筆集である「時間(とき)の園丁」は、自らを時を紡ぐ園の園丁に例えたその表題からしてなかなか含蓄がある。彼とは一度だけ言葉を交わしたことがあるが「徹という名前が一緒ですね」などとたわいもない話をただけだったのは、彼が亡くなった今となっては少々残念ではある。

さらに私の最も好きな指揮者であるレナード・バーンスタインが出身校のハーヴァード大学の詩学講座で行った講演をまとめた「答えのない質問」は、変形文法理論で有名な言語学者のチョムスキーまで引用し、音楽を多方面から洞察した、彼の教養の深さに驚嘆する書物である。なおこの本にはレコード(最近の版ではCD)が付いていて、実際の講演の様子を聴くことができる。

音楽と言えば、趣味ではアナログ指向の私にとっての必須アイテムはレコードであるが、このレコードの聴き方を指南してくれるのが、オーディオ評論家菅野冲彦氏の「新レコード演奏家論」である。音は人なりと言う通り、オーディオ装置から出る音はそのオーナーの人柄を反映するという信念の

もと、究極の音楽再生を目指して苦闘してきた氏ならではの“音楽再生者を演奏家と同様に位置付ける”という考え方には様々な意見があるが、音楽再生が、一種の音の個性的再創造行為であるという氏の意見には私も大いに共感するところがある。

さて、このように書いてくると、私がいわゆる文学には関心が薄い人間ように思われるかも知れないが、高校時代の私は、岩波書店の「志賀直哉全集」や「漱石全集」を集め、亀井勝一郎の随筆評論(大和古寺風物誌など)やドストエフスキーの全集などを読み、高名な評論家である吉田秀和氏をまねて音楽評論まがいのものを書くような、それなりに背伸びした学生だった。当時、受験勉強のZ会の問題に出た、三島由紀夫の「豊饒の海」最終巻「天人五衰」の最後の場面は忘れられない。「それも心々ですさかい」という門跡の言葉の意味を問うその問題は当時の私にはとても難しかったが、一方で何か不思議で強烈な印象を受ける文章であった。ちなみに最近、妻木木、竹内主演で映画になった「春の雪」はこの「豊饒の海」第一巻の物語である。

これらの本との出会いの中で、当時、私が最も傾倒し私淑した作家が辻邦生である。中国文学専攻の当時のクラス担任の先生が辻邦生のファンで、彼から次々と辻邦生の著作を借りて読むうちに、まるでフェルメールの絵画のようなその清らかな口まとフランス文学者らしい感性豊かな文章に次第に私は魅了された。彼は今に至るまで私の最も好きな作家の一人である。現在、私がパリのパスツール研究所と仕事をしたり、日本パスツール協会の会員として研究所の支援活動を行っていることの遠因も彼との出会いにあるような気がしている。また、彼の「パリの手記」や「モンマルトル日記」といったパリ在住時の随筆は、私自身がパリの地を踏んで初めて理解できたもので、それ以来ますます彼の作品を自分の身近に感じるようになった。

このように、これまで私を魅了してきた書物は数多いが、最後に私の恩師の著作をいくつか御紹介しておきたいと思う。一つは昨年惜しくも亡くなられた岡田善雄先生の対談集「いのちの科学を語る」である。ちょうど亡くなられる数カ月、千里ライフサイエンスセンターでお会いしてこの本にサインしていただいたのが、お目にかかる最後となってしまった。もう一つは岡田吉美先生の「遺伝暗号のナゾにいどむ」である。分子生物学の黎明期から日本でこの分野を牽引してこられた先生ならではの、わかりやすくまた示唆に富んだ入門書で、本書は遺伝子工学の講義の参考図書として就実大学図書館にも入れてもらっている。

現在、新刊として書店に並ぶ本は数多いが、それらの中でどの本を読むべきかナビゲートしてくれるのがNHK-BSの「週間ブックレビュー」である。本の紹介だけではなく、俳優の児玉清さんや同じく俳優で作家でもある中江有里さんのトークもとても魅力的なこの番組は最近私が必ず見る番組で、これを見ては図書館や書店に行き、新しい“私の一冊”を見つけるのが、今の私の読書術の一つである。

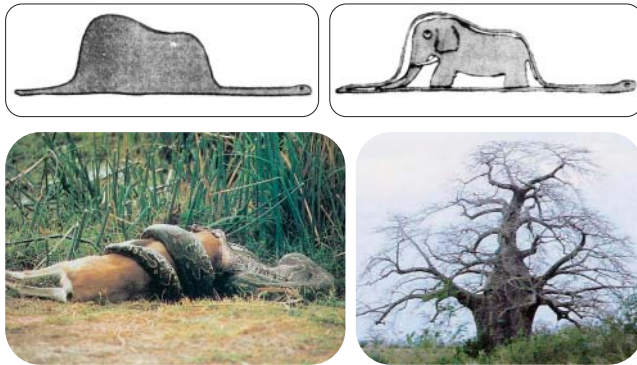


仕事と人間の幸福

薬学部教授 須藤 鎮世

「兜代わりにかぶった湯沸かし器に矢があたりカン、矢があたりカン、それでヤカンだ。」では、ツルはどうしてツルです？」「ツルはな、昔、クビナガドリといった。あるとき海岸の松の木にツーと飛んできて、ルと留まった。だからツルだ。」ツルと飛んできて、……。」ツルではない。ツーと飛んできて、ルだ！」「ではウワバミはどうしてウワバミです？」「ウワバミ？ウワバミねえ、ウワバミ。うーん、それはな、ウワてえものがあつたと思ひねえ。どうだ、思ったか！」「へい、思いやした。」そのウワがだな、バムんだ。だからウワバミだ。」ウワはやっぱりバミますか？」「バミますなあ。」

Saint-Exupery の「星の王子様」(The Little Prince, Penguin Books Ltd, Middlesex)は落語の一節を想起させる。無垢の心を持った大人には帽子に見えるが(図上左) 純真な心の王子様はゾウをバンだウワと瞬時に見抜く(図上右)。一体、ウワはどれくらい大きな獲物をバムことができるのか。昼寝をしていたヒトをバンだウワの写真は、巨大なツチノコであった。ツチノコとは大きな獲物をバンだヘビの状態を指すから、そういう種はありません。ウワはバムとき、あごの骨をはずすので、体の何倍も太い獲物をバメる。図下左はガゼルをバミつつあるニシキヘビです(Cambell et al., Essential Biol., 2nd Ed., Pearson Education, Inc., Illinois, P. 345, 写真: Gunter Ziesler/Peter Arnold, Inc.)。ウワは獲物を絞め殺し、喉ごしすっきり、肋骨その他の骨格をブリブリバリバリとへし折ってからバム。だからウワは「立象」のままではバマない。



「星の王子様」の冒頭に、ウワが動物をバムと6ヶ月も眠り続けて消化にあたる、と The True Stories from Nature からの引用がある。小型のニシキヘビを用いて、ラットを飲み込ませた実験(Nature 434, 37-38, 2005)では、摂餌後の代謝率は40倍増え、この状態は2週間も続く。酸素消費量は10倍も増え、48時間以内に心臓の心室は40%増え、肝、腎、脾、肺、心、消化器の重さも増える。獲物の消化となると、それまで眠っていた遺伝子のスイッチを入れ、盛んに蛋白合成を行ない、全身を消化装置に改造する。傍目にはうたた寝にみえても、実際にはエンジン全開、体は火の玉のように燃えている。こうして、2週間あるいはそれ以上かけて獲物を消化する。サーモグラフィーで撮れば、バム前のウワは冷血の巨大な青大将で、ゾウをバンだ後のウワは鉄火のような赤い帽子に写るだろう。

Saint-Exupery は職業パイロットとして頻繁にアフリカ上空を飛び、巨大なバオバブによほど感銘を受けたとみえ、こ

れが時おり顔を出す。小さな星に大きなバオバブは厄介者だ。第二次大戦の頃の飛行機は馬力も乏しく、彼は重力の強さを身にしみて感じていたに違いない。地球に来て一年が経ち、自分の星が真上に来た時、王子様はクレオパトラ同様に毒蛇に身を委ね、重力から解放され、かぐや姫のようにバラの待つ星に帰る。メッセージ：目は盲目、大事なことは心でしか見えない。

昨年カイロでの学会のあと、日本に留学していたタンザニアの知人を訪れた。若くして学部長を務める。ついでにバオバブ(図下右)見たさにサハラに行った。サハラ砂漠に不時着し、九死に一生を得たこともあるSaint-Exuperyは、1944年に地中海の藻くずと消えるのだが、彼に「夜間飛行」(新潮文庫、堀口大學訳)という小説がある。郵便飛行開拓時代に、仕事の遂行に情熱を燃やす支配人と、その命令で命を賭して飛ぶ妻子ある飛行士の葛藤等が描かれる。嵐のなかで遭難する描写などは体験者のみができることができる。これに、「狭き門」(高校生の頃読んだので、この自己犠牲の話はもう大方忘れた)のノーベル賞作家アンドレ・ジイドが序文を寄せている。「人間の幸福は自由の中に存在するのではなく、義務の甘受の中に存在するのだという事実を明らかにしてくれたことを感謝する者だ。」

森鷗外の「妄想」の中に関連した引用がある。「奈何にして人は己を知ることを得べきか。省察をもってしては決して能わざらん。されど行為を以てしては或は能くせむ。汝の義務を果たさんと試みよ。やがて汝の価値を知らむ。汝の義務とは何ぞ。日の要求なり(ゲーテ)。自分とは、人生とは、くよくよ考えても答えはできませんよ。日常の業務をしっかりとやりなさい、そうすれば、答がでるかもしれませんね。幸福が後からついてくるかもね。学生(学ぶ人)の義務とは何です？勉強です。かつて一高生であった藤村操という人は、人生とは何かを考え続け、結局結論が得られず、人生不可解と称して、華嚴の滝の露と消えた。額に汗して働けばよかったのに。私はかつて会社勤めのころ、新入社員に挨拶をしたことがある。自分の存在は運転免許証や戸籍では証明されませんが、何を成し遂げたかで証明されます。だから諸君、しっかり、仕事をしてくれ給え。私の傲も歴史的な大賢の言葉に照らして、それほどトンチンカンの外的外れではなかったと安心する。

この3月まで5年間、就職委員をしていた。時おり学生達が相談に来た。この履歴書の特に「私の抱負」のところをみて下さい。「私の目標は幸福な人々の社会を作るために尽くすことです。そのため、貴社の健康に奉仕するという理念のもと、MRとして貴社の優れた商品ができるだけ多く販売したいと思います。」MRは何の略ですか。分かりません。この会社の主要商品を3つ上げて、説明して下さい。これから調べます。自己犠牲のような浮いた話でなく、まず、私は幸福になりたいと言いな。自分が幸福にならなければ、幸福な人々の社会を願うことはできませんよ。自分から、そして家族へ、周りの人々へと幸福の環を広げてゆくんです。自分の幸福はどのようにして達成するのでしょうか。MR(Medical representative 医薬情報担当者)として、まず日々の業務を達成することです。会社に貢献し、会社が発展すれば、私も幸福になれます。会社が不幸だと、私も幸福になれません、そう言ってやんな。

OPEN LIBRARY

高校生のみなさん、 就実大学の図書館で 勉強しませんか？



就実大学図書館では、Open Libraryを行っています。

高校生も、制服着用で生徒手帳・学生証をお持ちいただければ、就実の図書館を利用できます。



就実大学図書館には、約28万冊の本があり、約400席の閲覧室があります。

たくさんの本と、静かで心地よい空間のある就実大学図書館を、みなさんの自習にぜひお役立てください。



入館には身分証明書（生徒手帳）が必要です。
制服着用でお越しください。

開館時間

9：00～20：00（土曜日は17：00）
日曜日、月末整理日は休館です。

2、3、8、9月の開館時間は変更になります。
ホームページをご覧ください。

共翔 第16号

平成20年6月20日発行

編集・発行
就実大学・就実短期大学 図書館

〒703-8258 岡山市西川原1-5-22 TEL(086)271-8134(代) FAX(086)271-8275
ホームページ <http://www.shujitsu.ac.jp>

館報の題字は押谷善一郎学長の書によるものです。